

## 式 辞

今日で、令和6年度の授業日が終わります。この2、3日は寒の戻りが実感され、懸垂幕がよく見えるようにと強めに剪定した桜の木が一層心細そうに見えます。今日はその桜にちなんだ話をします。

桜の開花のメカニズムに「600℃の法則」と呼ばれるものがあります。休眠状態に入っていた桜が目覚める日を2月1日と仮定して、そこからの最高気温の合計が600℃に達する頃に桜の開花が予想できるという法則です。過去10年間を検証すると誤差は3日程度ということで、確からしさもますますといったところのようです。桜の木が、時間をかけて気温のエネルギーを身の内に蓄え、満を持して花を咲かせるという現象は、人の努力が実るさまを想起させ、桜の開花を応援したいような気持ちになります。このことに関連して思い出すエピソードをもう一つ紹介します。

ある文筆家が美しい桜色に染まった着物に出会い、染織家からその色は桜から取り出した色だと聞かされます。そして、その色が桜の花びらではなく、花が咲く直前の頃の桜の木の皮から取り出されることを知り、桜が花びらだけでなく木全体で懸命になって最上のピンク色になろうとしていることに思いをはせた、というお話です。このエピソードも、人知れず静かにひたむきに情熱を燃やし続けることの尊さを暗示しているように思えます。

皆さんも、この1年間、それぞれに努力を重ねてきたことと思います。その努力を称えるとともに、新年度からの皆さんの一層の活躍を期待して、令和6年度第3学期終業式の式辞といたします。

令和7年3月19日

愛媛県立東予高等学校長 渡邊 琴子